

## 海外農業開発学特論 (2単位)

担当者氏名 渡邊文雄・高橋悟・島田沢彦・西牧隆壮

### ◆学習・教育目標

開発途上国を対象とした海外農業開発に関する工学的手法による試験・研究や技術開発協力のあり方について、各種事例を交えながらさまざまな知見から解説を加えていく。特に、アフリカ、アジア諸国での事例を紹介しながら、開発途上国の環境条件や文化について理解を深め、持続可能な農業・農村開発や技術協力の計画立案のための技術手法の修得を目指す。この科目は、必要に応じてバイリンガル（日本語と英語）で実施している。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

土壌・気象環境
作物生産環境
技術協力
技術移転  
研究協力

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	工学的手法による農業開発とは（第1～3週）	・途上国における農業開発の考え方	開発途上国における農業・農村開発協力についてさまざまな事例から解説し、途上国における技術協力に関する計画立案の手法を理解することにある。 さらに、教員と学生、学生相互の論議を通じて、問題の分析能力を醸成する。
2		・風土特性からみた水利用のあり方	
3			
4	アフリカにおける農業開発の事例（第4～9週）	・ジブチの気象・水文・土壌について	
5		・ジブチの作物生産環境について	
6		・エチオピアの気象・水文・土壌について	
7		・エチオピアの作物生産環境について	
8		・モロッコの気象・水文・土壌環境について	
9		・ウガンダの稲振興計画について	
10	アジアにおける農業開発の事例（第10～13週）	・アフガニスタンでの農業支援のための研究協力	
11		・CROPWATを用いた灌漑計画立案と演習	
12		・灌漑計画の発表	
13		・ODA・NGOによる農業技術開発・農業協力	
14		・持続可能な農業開発についての総合討論	
15	持続可能な農業開発とは（第14～15週）		

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

各講義内容に応じて適宜、資料を配布する。

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

授業への積極的な参加度とレポートで評価する。

### ◆その他受講上の注意事項

特に準備すべき事項はないが、常に自らの考え方を整理して発表できるようにすることが大切である。